

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・全ての職員が確認できる場所へ掲示する事と入社時の研修にて共有を行う事で統一したケアに繋げられるように努めている	理念についてはホールに掲示し来訪者の目にふれるようにしている。職員用トイレの壁にも掲示し、常に目にとめ、意識付けにつながるように工夫している。家族には利用契約時に理念に沿った支援について説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・現在はボランティアさんの来訪、区長、民生員の方々と相談をしながら地域への交流の機会を持てるように努めている	区費は納めているが、開設から1年ということもあり地域との関わりは徐々に進めている。近くに幼稚園があり当ホームの前を通園することから、その途上に挨拶をしている。中高生の職場体験や幼稚園との関わりを持てるようにと検討をしている。ボランティアのオカリナ演奏が定期的であり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通じ今後もボランティアや新たに職場体験の受け入れを行っていきけるように努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議にてご利用者様の状況報告出していただいた意見に関しては各会議の議題にあげ、次回の運営推進会議にて経過報告が出来るように努めている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で奇数月に行っている、区長、民生委員、家族4～5名の参加で開催している、利用状況の報告、意見交換等を行い、運営に役立っている。家族からはグループホームでの毎日の生活についての意見が多く出ている。	開設2年目を迎え運営推進会議を活かした取り組みとして、防災訓練などを運営推進会議と同日に行い、関連される方々の参加もいただき万が一に備えたり、地域の人々に更にホームへの理解を深めていただけるような会議にされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に来て頂いた時に相談や、アドバイスをいただき協力関係に努めている	市主催のグループホーム部会が年4回あり安曇野市の管理者の参加があり交流を深めている。市の研修は職員の希望を取り進んで参加している。介護認定の更新時には利用者の家族の大半が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束を行わない事を基本に職員が周知し、運営推進会議においても定期的に話し合いの場をつくり意見交換を行い身体拘束のないケアに努めている	拘束のないケアに取り組むため、見守り用のシステムを居室に設置し、転倒防止等に備えている。特に夜間体と日中はリスクが予測される方が臥床時使用している。離脱傾向の利用者がいるため玄関を施錠することもあるが、その場面に合わせ、職員と5～10分位、散歩をすることで納得されている。	

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会にて定期的に取り入れ、虐待防止に対する理解を深め、利用者様の様子に変わりがないか日々の確認に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会にて制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に不安や疑問点をお聞きしながら説明させていただくように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の際や面会時に伺い、いただいた意見や要望に対し、職員会議申し送りにて職員間で共有し改善に努めている	数名の利用者が意思表示をすることが難しい時があるが、職員が寄り添い1対1で関わりをもち要望等を受け止めている。週1～2回来訪する家族が多く、少なくとも年に数回来訪されているので、その際、意見等をお聞きし支援やホームの運営に活かしている。また、利用者と一緒に外出されたり居室で話をされており、その中から要望等があれば受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や定期的に行われる個人面談で出た意見や提案、要望等について管理者会議で検討し反映に努めている	ユニット毎に毎月行われる会議で利用者のカンファレンスや業務の内容について検討しており、出席できない職員には書面にて連絡している。法人としての人事考課制度が行われており、各職員は目標を定め、春と秋の年2回、自己評価の後管理者と面談し、賞与に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・4月と10月の年2回の人事考課面談を行い自身の評価や意見を言える場を設け、環境、条件整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月の勉強会、法人内研修会や法人外研修の案内も掲示し希望者には参加してもらうようにしている		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・定期的に行われる部会を通し、お互いの活動報告や困難事例の検討を行いサービスの質の向上に向け取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ケアマネージャーが事前面談を通し、ご本人の不安に寄り添い、プランに取り入れるようになっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面談を通し、ご家族からもお話をお聞きし、不安やお困りごとに対し寄り添い、プランに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前面談や入居時カンファレンスを通じ対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存機能を重視し、できることはやっていたり、ただ事役割を感じていただけるような支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とご本人の関係が切れないよう面会を促したり、時には協力して頂いたり(受診や外出支援など)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・主治医や医療機関に関して、ご本人が今まで通い慣れた病院やなじみの主治医の先生に継続してかかっていたりできるようにしている	利用者の半数が友達や近所の方の面会があり、数名の方は一緒に墓参りや買い物などに行き楽しんでる。携帯電話は自分で持ち居室にて会話をされている方もいる。また、事務所で携帯電話を預かり、電話がかかってきたら渡して話しをしていただいている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーション等でみんなで楽しめる空間づくりをしている。又利用者様同士声を掛け合い作業されている際はできるだけ見守り、過剰に手出しをしないようにしている		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現在該当となる事例はないが、サービス終了後の相談や支援の応じる体制になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントを通じ把握に努めている	入居契約時に利用者一人ひとりの嗜好や好き嫌い等を詳しく聞いて配慮している。遠慮がちな利用者には1対1で関わり、意思表示が困難な方には二者択一で決めて頂けるように声掛けしている。レクリエーションや行事の時には全員が参加できるように楽しんでいた。いたいたしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントを通じ把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々行っている申し送りや職員会議での利用者様のカンファレンスにて現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランの更新時の他に必要に応じ定期的にケースカンファレンスを行い、ケアプランを見直している	職員は2～3名の利用者を担当し、季節の衣類の整理や家族への補充依頼の連絡、誕生日会の計画等を行っている。また、家族から生活歴等をお聞きし、ケースカンファレンスを行いケアプラン作成時に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録にケアの実践状況、気づき、利用者様が発した言葉などを記録し、ケアに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・今のところ該当事例はない。柔軟なサービスの多機能化にあまり取り組めていない		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・医療機関や美容院、薬局、学校などの地域資源を利用し、安心して楽しい生活を送っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・今までご本人が診てもらってきた主治医との関係性は重視し、継続できるよう支援している。又必要に応じ施設の協力医の紹介もしている	利用者は協力医の往診で月に1回診て頂いている。訪問看護師が週1回来訪して利用者の健康管理を行い、オンコール対応となっている。歯科は往診専門の歯科医が定期的に来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・随時施設で提携している訪問看護師に報告や相談を行っている。又毎週1回は訪問して利用者様の健康管理をしてくれているのでそこでも報告、相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時や退院時にはそれぞれ情報交換を行い、退院時にはカンファレンスを行い、詳細な情報共有に努めている。又ケアマネージャーも日ごろから営業などで関係づくりをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に1度ご家族に話をしている。その後時期が来たら再度関係者全員でカンファレンスを行い方針の共有に努め、支援している	入居契約時に重度化についての指針を説明し、その状況に到った時は改めて家族の意向を確認し医師を含め説明するようになっている。開設からのほぼ1年の中ではその事例はなかったが、看取りの勉強会を年に1回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年2回の避難訓練の際に消防署の方から応急処置や救命救急等に関する講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練を通し、身に着くよう努めている。地域との協力体制に関してはまだ関係性が築けていない	年2回の避難訓練を予定している。開設後、8月に消防署の協力で消火訓練や利用者も参加しての避難訓練を行った。次回、5月に訓練を予定しており、その際は地域の人々や利用者の家族の協力を築けるようになっている。備蓄として米、水、みそ、塩、レトルト食品等を確保しており、また、ガスコンロ、発電機を用意し万が一に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・羞恥心を伴う行為に関してはできるだけその方にしか聞こえないように声かけをしている	利用者に対する言葉遣いは人生の先輩として尊敬の念を込め特に気配りし、尊厳を傷つけないように取り組んでいる。また、声掛けは苗字と名前を状況に応じ「さん」付けでお呼びしている。居室でのプライバシー保護にも気を遣い、入室の際にはノックと声掛けを忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・サービス提供時は必ずご本人に声をかけ、お聞きするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・できるだけ1人1人の生活ペースを尊重しお部屋で過ごしたい方はお部屋で過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着替えの際に声かけをし、着たい服の確認をしている。又、帽子が好きな方には外出する際には帽子をかぶっていただいたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜の皮をむいてもらったり、食器拭きをスタッフと一緒にしている	自力で摂取できる方が大半で一部介助の方が若干名という状況である。また、刻み食、とろみをつける方もそれぞれ数名ずつおり、小まめに対応している。利用者4～5名が座ったまま野菜の皮むきや食器拭き等のお手伝いをしている。職員は朝食、昼食、夕食の前に利用者に聞きながらメニューを考え作っている。誕生日には対象の利用者が好きなものをメニューにし、楽しんでいただいている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1人1人食事量や水分量を記録し、情報を共有している。お茶を飲まない方には他に好きな飲み物やゼリーなどを提供し、確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・できるだけ毎食後口腔ケアを行うようにしている。就寝前は必ず行っている		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を活用し、1人1人の排泄時間のペースや排泄状況の把握をしている。できるだけ排泄動作でご本人が行えることはやっていたい	自立の方は数名で布パンツとリハビリパンツを使い、一部介助の方が半数近くおりリハビリパンツとパット使用している。また、全介助の方も数名おりオムツとリハビリパンツを使用しており、夜間、転倒防止のためポータブルトイレを使用している方もいる。職員は排泄チェック表で管理し、パターンに合わせて声を掛けトイレでの排泄に繋げている。ヨーグルトを午後のおやつに提供し排便促進に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・レクリエーションで体を動かす機会を増やすなどし、予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は個々の希望の時間や回数では入っていただけていない	自立の方は数名で、全介助の方が大半で、その内職員二人での介助を必要とする方が半数強という状況である。週2回の入浴を基本としており、ユニット毎に行っている。入浴を拒む利用者は今のところいないが、入浴時の声掛けに工夫してお誘いをするように体制を整えている。入浴剤は使用していないが、今後、季節に合わせ菖蒲湯、リンゴ湯、ゆず湯等を行う予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・随時ご本人に声をかけ、お部屋にてお休みしたい時に休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・1人1人が薬の目的、副作用、用法、用量に関して理解はできていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・できる事はやっていたいながら役割作りを行っている。現在は該当する方がいないが喫煙や飲酒にも対応している		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・気軽な外出支援はできていないが、天気の良い日に散歩やドライブには行っている。ご本人やご家族が希望されれば希望の場所への外出支援も行う体制にはなっている	歩行器使用の方が全体の三分の一ほどおり、車いす使用の方が三分の二という状況である。外出は近くの公園に散歩に出掛けたり、近くのお寺に花見に行くなど、外の空気に触れたり綺麗な花をみて楽しんでいる。年間の外出行事計画を作り、外食やドライブを取り入れていく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在該当者はいない。希望があれば事務所で預かるなどし、必要に応じてご本人にお渡しすることも可能な対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があれば対応してる。手紙に関しては現在該当者はいないが、希望があれば対応可能		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有のスペースにあまり生活感が出ていない	個々で作った花や作品が居室の入り口に飾っており、心地良い雰囲気づくりをしている。ユニット毎で行き来ができるようになっており、利用者同士で会話の輪が広がっていた。天上が高く、ホールがさらに広く感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席に配慮し、話の合う、気の合う方で交流が持てるような配置にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・なじみのものを持ってきてもらい、ご本人が居心地のよいと思える居室づくりをしている	各居室にエアコンが設置され、担当職員が季節によって衣類を整理している。誕生日のプレゼントの色紙やレクリエーションで作った作品が飾っており楽しく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・看板の表示をわかりやすい表現に変えたりしている(トイレなど)		